

対テロ戦参加

米兵自殺率 倍増

イラク 開戦後 長期従軍で疲弊

【ワシントン大治朋子】イラクやアフガニスタンでの対テロ戦争に従軍した米陸軍兵の昨年の自殺率がイラク戦争前に比べて倍増し、ベトナム戦争以来、初めて一般の米国民の自殺率を上回ったことが分かった。今年の自殺件数は「調査中」も含めると既に91件で、過去最悪となった昨年の143件を上回る見通し。戦争の長期化で米兵の6人に1人が3回以上従軍しており、背景には過剰展開による米軍の疲弊があると指摘されている。

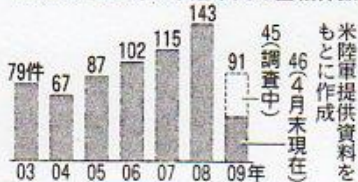
(8面に関連記事、9面に連載「テロとの戦いと米兵」)

米陸軍が毎日新聞の取材に提供した資料によると、同軍兵士の昨年の自殺率(人口10万人あたりの自殺者数)は20・2人で、イラク戦争前の02年(9・8人)から倍増している。兵士と同世代(20〜34歳)の米国民の自殺率は19・5人(05年統計・米陸軍修正値)で、この割合を上回ったのは「ベトナム戦争以来(米陸軍)」という。

昨年の自殺は、今年1月時点の集計では128件だったが、その

後「調査中」とされたケースの大半が確認され、143件(今年3月時点)に増えた。記録を取り始めた80年以降

イラク戦争以降の米陸軍兵の自殺件数



で最多という。今年3月、連邦議会が「陸軍はストレスにさらされ、疲弊している」と指摘。兵士の従軍長期化が「自殺の大きな要因」と述べた。

米陸軍の調査によると、繰り返し配備された米兵は、1回だけの兵士より心的外傷後ストレス障害(PTSD)を発症する割合が5割高くなる。

既に4月末までに46件が確認され、45件が調査中となっている。戦争の長期化で陸軍は本来12カ月の従軍期間を15カ月に延長。除隊希望者には1年前後の延期を命じるなどして兵員不足を補った。この結果、米軍全体の4割にあたる約70万人が2回以上従軍している。キアレリ陸軍副参

米陸軍提供資料をもとに作成
46カ月末現在
(45調査中)

